

別記様式(第4条関係)

会議録

会議の名称	第4回加東市東条地域小中一貫教育推進協議会
開催日時	平成28年1月26日(火) 19時00分から20時32分まで
開催場所	東条中学校 2階 図書室
議長の氏名 (委員長 石田和伸)	
出席及び欠席委員の氏名	
【出席委員】 11人	
石田和伸委員 岸本耕一委員 小林和也委員 水野英樹委員 近藤光浩委員 藤原尚弘委員 眞海秀成委員 辻田昇司委員 藤原正幸委員 山本健造委員 上月浩忠委員	
【欠席委員】 2人 (うち代理出席1人)	
岸本強 (代理出席:岸本美智代) 委員 前田一委員	
説明のため出席した者の職氏名	
【教育委員】	
大島巧男教育委員長 藤本洋二教育委員長職務代行者 神崎芳美教育委員 浅川るり教育委員	
出席した事務局職員の氏名及びその職名	
教育長 藤本謙造 教育部長 堀内千稔 教育総務課 課長 大橋博英 同 副課長 柴崎俊之 同 主幹 山本幸平 学校教育課 課長 登光広 同 副課長 平川真也 同 主幹 藤原良二	
議題、会議結果、会議の経過及び資料名	
【議題】	
(1) 地域の小中一貫教育について (2) 今後の予定について	

【会議結果】

- (1) 施設の形態、建設候補地及び整備時期について、審議しました。
- (2) 教育委員会の決定事項の報告方法について、審議しました。

【会議の経過】

1 開会

2 協議

(1) 地域の小中一貫教育について

[事務局説明 (資料①)]

(委員長)

ただいまの説明を聞いて、いろいろ論議を進めていきたいと思いますが、まず各委員から個々の意見を頂戴したいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

まず、最初は施設形態ですね。併設型か一体型かということについてです。いろいろありますが、一体型がよいのか、併設型がよいのかという形で、個々のものから進めていきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

これにつきまして、順番に御意見を頂戴いたしますので、よろしくお願ひします。

(委員)

一体型、併設型ですが、そのようにすると言つたら、やるのですか。東条の学校をどこにどうするかということはある程度決まっているのですか。

(委員長)

それは、まだです。

ですから、まず、そのことは関係なしに、一体型がよいのか、それとも併設型よいのかの御意見を頂戴したいと思いますので、よろしくお願ひします。

(委員)

見に行った京都の施設のような施設が可能であれば一体型が良いです。

(委員)

保育園の保護者にいろいろ聞くのですが、それは施設一体型がよいと思っています。ある目的を持って設計、整備し、視察後の感想に書かれていますが、やはり小学校と中学校の生徒が同じ校舎で教育を受けることになるということで、施設は一体型でするべきだと思います。併設型であれば小学校と中学校が別々で、子どもたちも何を目標にしたらいいのかわからないし、先生もすごく負担になると思いますので、どうせやるのだったらというふうになるのですが、施設一体型でスタートさせたほうが、私自身、そして保護者もよいと言っています。

(委員)

小さい子どもと中学校の大きいお兄ちゃん、お姉ちゃんが一緒の施設にいるという中で、安全面等には配慮していただければと思いますが、皆と同じ意見で、施設一体型のほうがよいのではないかと思います。

(委員)

私も同じで、施設一体型がよいと思います。

(委員)

もし、小中一貫校を建てるのであれば、中途半端なスペースより、しっかりスペースをとっていただきたいとは思います。一体型か、併設型かと言わると、はつき

りとは言い難いのですが、一体型のほうがいろいろな面においては負担が少ないのかなと思います。

(委員)

カリキュラムを進めていく上のことと、それから職員が動きやすいというようなことを考えると、一体型、一緒やったほうがいいかなと思います。

(委員)

正直に言いますと、どちらも経験がありませんので、実際どのようなデメリットがあるのかということはわかつてこないわけで、子どもにとどても、職員にとってももちろんメリットもあるしデメリットもあるでしょうが、どちらかと言われると一体型のほうが安全かなというところでしょうか。

(委員)

学校運営上であるとか、環境面等を考えれば、教師、子どもの一体感を求める上で、一体型が望ましいです。

(委員)

現場の教師からすると、併設型と一体型についていろいろと調べる中でも、教育体制がとりやすいのは一体型かなというふうに思いますし、視察をしまして、顔を見ながらの交流が小・中でしやすいということでした。

(委員)

視察に行かせてもらった中で、私も一体型のほうがよいのかなと感じました。実際、現場にいらっしゃる先生方からも、学校運営上、そういう話を研究会の中でも聞きましたので、やはりそうなのかなというふうに感じました。

ただ、加東市内で進めるに当たって、いずれにしても持ち上がってくる課題もあると思いますので、そのあたりは今回のこのような地域の連絡調整や集まりを基盤として、子どもたちのためにどうあるべきかというところを、いろいろと知恵を出せばよいと思います。

最後は、本当に実施に当たって、皆で考えていくということになるのだろうなというふうに感じます。

(委員長)

私も視察に行かせていただいた1人ですが、外だけ見た感じではやはり一体型がよいと思います。いろんなことがあると思いますが、中学校と小学校が分かれているような状況と比較しますと、一体型のほうが高学年の児童・生徒は自覚、優しさが生まれてくる。低学年につきましては、お兄ちゃん、お姉ちゃんに聞いたらわかるというような信頼感ですね。この前、生活を少し見ただけですが、そういう感じを受けました。その中で、やるのであれば一体型ということが望ましいのではないかというような気が私もいたします。

そこで、東条の場合、一体型にするにはどこにするのかということがまず大きな問題になると思います。東条の地形を見ますと、東条川沿いにずっと長細く平野が続いているというような形です。また、東と西とが並んで、その中間点はどこであるかなどいろいろなことを考えていきますと、これからの話になりますが、一体型にするには場所はどこにすればよいかということが、まず一つの大きな問題だと思います。それにつきましても、委員の方々の意見を頂戴したいと思っております。結果はどうなろうが教育委員会に任すというような形になると思いますが、とにかくこういうふうな形でやってほしいというようなことがございましたら、御忌憚のない意見を出していただきたい。まず、1番目に皆様の意見を聞いたところによりますと一体型が望ましいという意見が多数だと思います。そして、それにつきまして、場所をどうするかということですね。順番に聞かせていただいてよろしいか。

(委員)

教育委員会の案を具体的に教えてほしいのですが。

(事務局)

東条文化会館周辺の土地の確保というのはやはり必要になってきますが、そういったところを確保した上で東条文化会館周辺が今までの経緯からして望ましいという結論を出させていただいてございます。

(委員)

それでは、その場所であれば一貫校はできるのですか。今、土地のある程度の計画はできていないわけですね。

(事務局)

地域の意見を踏まえて決めていくというところでございますので、まだ具体的に入っていくというところまではできておりませんが、もし確保できれば、面積的には東条東小学校ぐらいの敷地面積を確保できますので、小中一貫校の建設が可能ではないかという判断はさせていただいております。

(委員)

附属施設等のいろいろな建物も、あの面積でクリアできるのですか。子どもの人数は多少減ってくると思いますが、あの場所で実際によいのかどうかを検討された上ですか。

(事務局)

具体的というよりも、面積的には大丈夫かなという検討をしています。もちろん今の東条中学校のグラウンドの利用等は必要にはなってこようかとは思っています。

(委員)

面積的にはクリアということですね。

(事務局)

そうです。

(委員)

建物はどのような建物かというような計画があれば検討できますが、今、どちらがよいというようなことが返答しにくい点があります。やはり、具体的な内容の案を出して、それでどうかということで進んでいくのが一つの方法ではないかと思います。でも、出しにくい点もあると思います。

(事務局)

施設のアドバンテージという話もあり、専門委員会や施設検討部会をつくったりして、地域の皆さんの中の意向あるいは保護者の意向、先生方の意向、専門家の意見も踏まえながら考えていく、皆の意見を取り入れた校舎にしていくということが重要なふうに思っております。そのために5年間の準備期間もとて、これから考えていくべきではないかなというところです。具体的な建物をいきなり示すのではなくて、それも含めて考えていく、皆のアイデアを出し合うというスタンスでございます。

(委員)

文化会館の周辺で、ほぼ決定ということですね。

(事務局)

教育委員会としては、望ましいというふうな意見は出させていただいておりますが、この推進協議会の皆さんの意見を尊重しながら、それを踏まえて最終、今年度末には決定するという段階でございます。

(委員長)

だから、気持ちを言ってもらったら、それも考慮されるということですね。

望ましいということは言っておられますが、それ以外にまだこういう土地がある

ということがあれば。

(委員)

私は、この場所につきまして、東小学校の土地ぐらいはクリアできると聞かせていただきましたが、実際に、前に道があるし、交通事故のことや災害の心配のことが少し懸念されます。それで、もし東条のグラウンドの周辺にしてもらえば、いろいろな施設があるし、そこへ皆寄ってくるというような形にもなり、東条の地形から考えていけば高齢者も出てくるというようになって、スペース的には一番良いのではないかなと思います。

一回建てれば50年は建てられないで、いろいろな問題も出てきますが、やるのであればそのようなところに持っていくべきと思います。小さいところでは、どうしても附属施設が必要になります。やはり、最高ではないですが、最高に近い建物をつくっておかなければ、今、しておかなければ無理かと思います。ですから、安全面やいろいろなものを考えた上で、距離的なこともありますが、私個人は東条のグラウンドの周辺のほうが良いのではないかと思います。

(委員)

今、委員が言われたとどろき荘周辺、それと岡本のライスセンターの敷地もよいかなと思っています。ライスセンターの土地は川が近くないということで一番良いのかなと思いますが、市は東条文化会館周辺で考えておられるので、そこが第1候補と私自身、そして保護者も若干そう思っていると思います。

素朴な疑問で、東条文化会館は指定管理者により平成28年4月から3年間運営されると思いますが、その中で、東条が平成33年からスタートするとして、併用して建設することは可能なのですか。

(事務局)

今、言われたように、コスミックホールについては新しいNPO法人を今、準備されています。指定管理で平成28年度から3年間運営する予定でございますので、できればそこで運営していただきて、今までと違った文化事業をしていただいたら、それは活かしながら、また、小中一貫校も建設できるスペースを今は考えてございます。

(委員)

場所的なことに関しては、言わせてもらった東条文化会館周辺か、委員が言われたとどろき荘の周辺か、あとは岡本のところですね。そのほかに、挙げるときりが無いと思いますが、3キロ以上はバス通学ということも言っていたので、東条の真ん中に配置するのが一番いいのかなと思うので、先ほど言わせてもらった意見です。

(委員)

予定場所について、いろいろと考えさせていただきましたが、保育園の保護者の方にお話を聞くと、どうしても通学のしやすさや通学路の安全性、その辺りの話がどうしても優先的に出てくるのかなと思います。ただ、小中一貫教育でよりすばらしい教育を子どもたちに受けさせてあげられるようにして、より明るい未来をつくっていけるようにということが本来の目的のかなと思いますので、まず教育を十分に与えられる上での制約が生まれないような土地、そこが最優先にあるべきではないのかなというふうに思っています。

子どもたちが教育を受けるに当たってというところで、まず十分な広さ、それから教育を受ける上での安全面、いわゆる水害などの災害や治安面について、この市の中で最も優れた土地であるか十分に検討されているかということが考えるべきことかなと思います。学校の大きなグラウンドというのは、何かあったときに避難する場所にも活用されるべき場所であると思います。この地域の方であれば、そ

といったところがロケーションとして挙がる予定場所でないのかなと思います。そういうところを優先的に考えて、十分よい教育を子どもたちに与えられる場所ということになっていくのかなと思います。

(委員)

どれくらいの場所が必要なのかもよくわからないので、一概にここがよいということは言えませんが、せっかくコスミックホールがあるということなので、コスミックホールを利用した学校づくりというのがよいのではないかとは思います。コスミックホールの周辺という意見に多分なってしまうのですが、せっかく良いホールがあるので、小学校の音楽会で使うとか卒業式で使うということが、もしさせてもらえるのであれば、なかなかそのような小学校、中学校というのは多分ほかにはないと思うので、ほかの学校から見ても、あの学校は良いというものになるとは思います。そういうことは可能ですか。

(委員長)

それは、これからNPO法人ができますので、交渉して、あいていれば学校行事で優先的に使うということはできると思います。

(委員)

コスミックホールは水の面で危ないと言われているのでしょうか。

(委員長)

ダムが決壊したときですね。東条川の奥には、鴨川ダムと大川瀬ダムがありますので、そのあたりですよね。

(委員)

でも、建てるときに少し高くするとか、もう絶対大丈夫という安全面だけ十分に気をつけていただいて、子どもが安心して通える、親として通わせて大丈夫と言えるようなものをつくっていただけるのであれば、それがよいかなと思います。

以上です。

(委員長)

今、半分ほど意見を聞いていますが、やはり場所としては、とにかく安全面がまず第一ということですね。それから、教育に適する、そういう場所であるかどうかという意見が出ています。

(委員)

私の周りの保護者の中にも、このコスミックの周辺は水の心配があるという意見が聞かれるのですが、そういうところがクリアできるのであれば、別に今の案であるコスミック周辺がよいのではないかと思います。南山に建てればよいのではないかというような意見も聞こえますが、コスミック周辺であれば、中学生が自転車で通うにしてもすごく平坦な道で来ることができます。

南山だったら坂があり、行きは上りになりますが、帰りは夕暮れどきで見えにくいときにすごいスピードで自転車で下ってきて、思わぬ事故に遭うということも考えられるので、そういう面ではコスミックホール周辺のほうが安全面が大丈夫かなというところです。

(委員)

先ほど言わっていましたコスミックを利用してという形は、現在東条東はもうやっています。音楽会でも使用させていただいていまして、その意見にはすごく賛成で、コスミックを利用した学校づくりというのはかなり興味深いところです。

それと、用地ですが、市の出されている中学校の施設も使いつつ、下で校舎を建てるという案には私はすごく反対します。なぜかというと、上にグラウンドがあって、下に校舎があると移動のこともありますし、それから下に校舎を建てるとき、先ほど言わっていましたが、ダムが2つある。決壊しなくとも、水が増えれば放流す

るんです。その際に、すれすれまで水は来ているんです。だから、下に関しては避難所になるような施設にならず、危険だと思っていますので、下に校舎を建てることは反対です。もしこの周辺というのであれば、中学校の土地をもう少し削って広げるなりして、上だけで何とか施設をおさめていただきたいと思います。

私は、ここでのことは学校にも持ち帰って役員の方と話もしますが、その中で1つ出ているのは、南山にある小学校用地。何度も役員で見に行ったりもしていますが結構良い場所です。先ほど、下りがあつたり、上りがあつたり、少し不安ということでしたが、コスミックの周辺に建てても南山の子どもたちはそこの坂を下って学校を通学するわけで、現在もやっていますし、そんなに危険はないと思いますので、場所としては、中学校の今の場所を何とかもっと広げて使用するか、南山の小学校用地が私は適地だと思います。

(委員)

コスミックの周辺というような話が出ているようですが、学校としてはやはり周辺施設、図書館もありますし、コスミックホール等を近くで使えるというのは非常に便利かなというふうに思っています。

それから、新しい学校も、今の小学校、中学校のように地域の方々から愛される場所でなかつたらいいというようなことを考えるときには、できるだけ町の真ん中辺りのほうが立地的にはよいのかなというふうなことを思います。

もう一点は、今、学校行事をするときにいつも課題になっているのは、駐車場が少ないということを言われております。コスミックの駐車場は100台ほど入りますし、それもあってという条件であれば、ここ周辺というのが良いのかなと思います。おっしゃったように、中学周辺でというのは、そういうことであれば近いということであるのかなと思います。問題は、用地をどのようにして確保するかということなんですね。それは、どこがよいかと言われたらわからないですね。

(委員)

京都の先進校に見に行かせてもらったときに、どうなのかなと思った最大の点は、校地が離れていたところにあったところです。最初に見たときに、グラウンドが狭いなと思ったら、実は隣にありますという話を聞いたのですが、最初からその用地を確保できるところに建てられなかつたのかなというのは正直思いました。だから、後で、もう少しと広かつたらなどか、もう少しこうなっていたらなと言うのではなくて、やはり最初から余裕のある土地がよいのかなと思いました。

今おっしゃっていたような安全面も十分考慮していかないといけないというふうに思いますので、となるとなかなか適地がないのですが、消去法で言ったら、ライスセンターの周辺かなというふうに私は思います。実のところ、これといった決め手がないです。

(委員)

東条の地形、東条の文化、学校文化であるとか、地域の文化であるとか、歴史を含めて考えて、それを大切にした上で探すとなれば、この文化会館周辺から中心として東条川もあります。ただ、文化と、水害という害とは両極端になりますので、その辺をどうするかというのが残ってくらうと思いますが、単純に考えれば、地面を上げるなど、最大限考えられる工夫をする。

それともう一点は、行事面や通学面を考えると、行事面であれば集まりやすい場所、通学面であれば半径数キロの東条の中で、西も東も来やすく、地理的にも坂道もないところとなれば、この辺しかないと私は思います。

(委員)

皆さんのが言わわれているとおりの安全面等は最優先して考えていく部分と、この東条の地で理想をどこまで追求できるのかというのは、いろいろな人の意見を鑑みて

考えていただけたらというふうに思いますが、距離を実際に数字で測って、候補として、田でちょうど東条の地の中間地点がうまくあればまた話が変わるのかなというふうに思います。

ただ、中学校もコスミックホールを利用して文化祭であるとかいろいろな催しをしています。学校の体育館ではなくて、防音、響きであるとか、観客が一体になれるようなホールがあるというのはすごくありがたくて、文化会館で活動することで子どもたちの意欲も高まっていくというのが少なからずありますので、文化会館を利用できるような場所という意見と、地域のいろいろな意見の中で中間地点にというふうに、できる限り理想に近づけるような場所を探してもらいたいと思います。

(委員)

子どもたちが学びとか勉強できることに打ち込めるところであり、かつ、やはり通学ですよね。昔と違つていろいろな方法で通学しているので、そういうことも考えながら場所は決めないといけないのかなと思ったときに、やはり私もこのあたりかなというふうに思います。

それと、文化会館のことで、子どもたちの反応がすごくあります、今も出ていましたように、子どもたちが文化会館で育ってきたというのは非常に大きなことと私は思っております。それが残っている中で、学校に貸すことについては理解していただきたいということは、本当に皆さんのが切なる願いなのかなと思います。

ここでどうするのかといったときに、私もいい加減なことを根拠なしに言いますが、今も意見が出ていましたが、この山を削る、要はもし危ないのであれば危ないものを撤去する、基本的にずれる場合はまずそういうことを考えます。その次に、ずれない工事をするというのが順序かなと私なりには思っております。今ちょっと勝手なことを言っていますが、この地で何とかするには、そのようなことも考えていいけるならば、それもあるのかなというふうに思います。

(委員長)

私も個人的には、やはり文化それから地域の中心地、何よりも大事なことは子どもの安全性、これに尽きると思うんですね。まず、一番に考えないといけないことは、安全性ということですね。これが克服できれば、この周辺ですむのが一番ではないかなという個人的な意見でございます。

皆さん方の御意見をまとめますと、まず、子ども第一、安全第一ということが念頭にございます。これはもっともなことだと思います。それから、やはり地域の中心地であるということが大事でございます。それから、通学しやすいところですね。それから、ここには文化会館という全国に類のないような立派なホールがあるということで、子どもたちがそれによって育ってきて、子どもたち自身も非常に愛着を持っているというようなことで、それを使用できるというような4点が大事ではないかというふうに思いました。

これも、いろいろ意見を言っていただきますと、もう終着駅がないような気もいたします。ですから、今述べていただきました皆さん方の思いはもう置いて、次は、整備時期ですね。建てるとか、建てないとか、そのようなことではなく、いつがよいのかという時期ですね。これについても御意見を頂戴したいと思います。それをまとめまして、最終的にまた御意見を言っていただくというような場をとりたいと思います。それでは、3つ目になると思いますが、東条としては時期をどうするかということです。これは、する、しないというのは別ですよ。ですから、希望としての意見をここでお聞きしたいということで、皆さん方、いろいろな方の意見、また団体の意見を聞いておられますので、御意見をお聞きしたいと思います。よろしくお願いします。

(委員)

この件につきましては、ここにおられる学校関係の方に本音で言ってもらうのが一番ではないかと思いますが、東条はよく考えてからすればどうかという意見と、そうしたときに東条だけのけものになってしまったら困るという意見があつたというようなことで、でも、より良いものを建てるべきということで、もっと思案できるのであれば、東条地域は焦らなくてもいいかなと思つたりしますし、もう少し早いほうがよいか、予定どおりしたほうがよいのかなというふうなこともあります、しんどいですね。まず、先生方の関係で。

(委員長)

それは、やはりお子様をお持ちの方の御意見が。

(委員)

それがいいですね。

(委員)

東条東小学校まで距離もすごくありますし、通学も危ないところも多々あるので、個人的、あとは保護者の意見も聞くと、やはり平成33年4月になってほしいという意見が正直多いです。

ただ、平成33年4月に東条地域がスタートするとして、平成28年から準備委員会を立ち上げて、5年間で実質つくられるという中で、先にされている他市の小中一貫校は、準備するに当たって何年ぐらいでやつたのかを皆さん結構気にしておられて、例えば5年では全然短いのに無理にスタートするのはどうなのかという意見もあります。なので、他市の意見等も参考にしながら、5年でしっかりとつくり上げていけるのでしたら、また、33年4月にスタートするにしたら、例えばどれぐらい前に建物ができるというビジョンがしっかりとあるのでしたら、もう33年4月からスタートしていただきたい。西小学校の新入生が5人程度になり、親したら不安であるという意見もありますので、どうせするのだったら一発目でいいたらどうかという意見です。

(委員)

いろいろな方の思いがあると思いますが、保護者の立場で言うと、良い学校ができるのであれば、できるだけ早くこちらに建てたほうがよいと思うのは親としては当然の思いなのかなと思います。

ただ、一方で、実際に校舎を建てるということになりますと、先ほどの話に出ており土地選び、建設の許可をとります。折衝とか、実際に着工してから建設するまでの期間などというのは、専門家としっかりと話し合って、その必要な時間というのは十分に確保していただくこととして、それに合わせればいいのかなと思います。実際にそれがいつぐらいになるのかというところは、他の地域でも同じように小中一貫教育というのを進められていますので、どういう形で開校していくのがよいかということだと思いますが、できるだけ規模の小さいところからやはり始めるべきなのではないかなと思います。例えば、同時に推し進めて、全部失敗をしてしまうということになったら、たくさんの人々に迷惑がかかってしまうと思いますので、ここはやはり一番規模の小さいところから順番にまずやっていって、それで間違いないこれなら大丈夫だというところで次へというのが順番でないのかなというふうに思います。専門家の話を聞かないとわからないのですが、5年ぐらいの期間になってくるのではないかというふうには思います。

(委員)

先ほど言っていたみたいに東条西は来年5人とか6人とかというレベルで小学校生活をスタートさせることになっていますし、今後、もっと少なくなるくることもありますので、9年間しっかりとした教育をしていくためにもやはりできるだけ早いほうがよいと思います。他の地域からやってもらって、後に行

くほど尻すぼみになつても困りますので、一発目にすごくよいところができたと、やはり東条からやってよかつたなと言われるような施設が、この5年間で話し合つてできるのであれば、安全面に注意してやつたら、是非一番にやっていただければと思います。

(委員)

やっぱり子どもの人数がどんどん減っているので、できるだけ早くしてほしいとは思うのですが。

(委員)

私は、1番目はもう反対です。なぜなら、まず、今、加東市のやっておられる小中一貫教育に関しては、再三言っているのですが、カリキュラムは後ですることなんですね。ということは、どういう小中一貫教育をしたいかというプランがないのに、小中一貫校をやろうとしているわけで、それなのに1番目に名乗りを上げるのは、私としてはかなり不安があります。

それから、先ほど少しありましたが、小さいところからやってみて、失敗を少なくするということは、東条地域が一番少ないので東条からやって失敗したら、また次のところでしっかりとやるという考えなのかなというふうにしかとれないですね。人数が減っていると西小学校の方は言いますが、確かに人数は減っていますよ。でも、子どもが減っているから小中一貫にするということではないと思うんです。やはり、そういうのに利用してはいけないと思います。人数が減っているだけだったら東小学校と西小学校が一緒になるだけでいいんですよ。小中一貫校にするというのは、東条中学校も一緒に入つてするということですから、中学校も一緒になるということがどのようなメリットがあるんですよということがしっかりと見えてこないと、簡単に進めてしまってはだめになると思います。ということで、私は今はまだ少し時期が早いかなと思います。だから、東条地域は1番目にはしたくない。そんな無責任なことはしたくないです。

(委員)

人情としましては、良いところ取りをしていきたいということで、先にせんでもらって、良いところ、悪いところを検証しながら進めていくのが好ましいのかなというふうには感じるところはありますが、皆さん方が言わわれているように、一貫校をつくるためには地域の方々の協力がなくては進められません。別に社とか滝野を悪く言う気はさらさらありませんが、東条の方々がいざするというふうになったときの協力のいただき方ということを考えたときには、一番御協力を得やすい地域というのは私は感じています。

いろいろな方の御意見があつてというのは、まだまだ一つになり切れていないというようなところはありますが、これがもし、ゴーということになったときには一番早く決まるのかなという気はしています。

また、先ほどの小学校の合併ということではなくてという話になりますが、実際問題、西小の現状、西小の方々のことを考えると、どうせするのであればこのタイミングのほうが東条としてはいいのかなというのはあります。

(委員)

先ほど、場所の件で、校舎であるとか校地であるとか、そういうハード面を議論しましたが、私はそれ以外にも大事なのはソフト面かなというふうに思っています。つまり教職員の意欲、校長のリーダーシップももちろんんですけども、市のバックアップ。京都の先進校の校長先生がそのような話をされていたように思うし、私も全く同感です。

そういう意味では、何番目にするのかが問題ではなくて、今言いましたようなソフト面の充実が大事ということを思っています。早くできる地域があれば、そこが

一番としていいだろうし、時間がかかるならば流れるということもあり得るのかなというふうに思っています。ですので、無責任な言い方ですが、東条が1番目とか3番目とかいろいろ言われていますが、そこを大事にしていきたいというふうに思います。

(委員)

最も大事な地域のバックアップというところを考えた場合、本当に東条というところは、密着した協力をしていただけるところだと感じています。プラス、一貫校に対しての教師のやる気ですが、これも前々から東条が1番になるということで、そういう考えのもと来ていますので、もうやる気も十分と考えています。ただ、場所に関して、ここと決まった上での話ですので、その辺が揺らいでいては1番になるところがもう遅れをとって3番になってしまいます。

もう一つ気になるところは、校舎の老朽化といいますか、中学校のこの建物もかなり古い。直接的には一貫校と関係がないかもわかりませんが、修復する期間が2、3年になるのか、もっと長く修復していかなければならないとなれば、暗い教室であるとか、雨漏りするとか、プールの水が減ってくるとか、子どもたちの普段の学習に対して、いろいろな心配が出てくるので、その辺のことも含めたら、やはり1番にすべきだと私は思います。

(委員)

東条の地は、すごく地域の協力度が高くて、学校に対しての協力がありますので、小中一貫の学校を建てればすごく良い学校になっていくんだろうという想像ができます。

基本的に学校のカリキュラム体制は、実際5年後であれば整うというよりも、今でも小学校1年生から中学校3年生までそれぞれのカリキュラムでしていますので、それを念頭に置いて、一貫校になっても進めていくことは可能と思っています。

小学校と中学校を一緒にするメリットは、思春期が長くなっている中で、どういう学年構成でという部分が今、ちまたでも話をされていますので、意義あるものだというふうに思っています。

個人的に話をさせてもらうと、発信する東条という形で考えられたらどうなのか。最初にして、いろいろな部分で発信をする。想像を超えるような事柄が起こるかもしれません、実際、私は今の社中学校が統合した年の1年目の生徒でして、体育館もプールもありませんでした。では、体育の授業はどうするのかと体育の先生が困られたと思います。そのときに、ない学校をつくってどうするのかという地域からの話も、生徒には聞こえてこないですが、そういう学校でしたけれども、実際現場にいる生徒は自分たちの学校をつくっていこうという意識がすごかったです。だから、校歌もありませんので、校歌がない学校でどうしていくのかという部分でいくと、新しい学校なので生徒も一緒になってつくっていこうというような機運が芽生えて、100%完成されたものの中にはよりも、自分でつくっていくというような部分がたくさんありますので、発信ができる部分もたくさんあって、その苦労話などもできながら良いものをつくり上げていけたらというふうに思います。

(委員長)

時期については、いろいろな意見がございます。やはり一長一短ございますので、まとめるということはできませんが、今、3つの点につきまして御意見を頂戴しました。

最初に言いましたように、まず、施設形態というのは、これはどの方も一体型がよいだろうという御意見がこれはもう非常に多くございました。それから、建設の候補地については、保護者の方たち、また、地域の方たちも第一に考えられるのは、

とにかく子どもの安全性、それから教育現場としてその場所が適しているかどうかということです。今の親御さんたちは教育の場所、環境というものについても、非常に敏感であるというようなことを私自身が感じました。ですから、そういうところも教育委員会で十分に検討していただきたいというようなことです。だから、皆が納得いく候補地を選んでいただきたい。そして、それが10年先、20年先にやはりよかったですというふうなことが言えるような場所を、難しいと思いますが、今出したような意見を参考にしていただきまして、考えていくいただきたいと思います。

それから、3番目には整備時期です。これはやはり意見が分かれますね。西のほうは、28年度の新入生が5人ということで、5人ではやはり学校のクラス自体が成り立たないのではないかというような懸念もございます。確かにそうだと思します。5人で何をするにも、もう喧嘩もできない。喧嘩したらそれがずっと続き、誰も助けてくれない。ただ、それが30人、40人おりましたら、1人がいじめても、喧嘩していても、仲よくしないといけないという者が出てきますが、5人では、その子がまた目の敵になる。ということで、子どもたちがバラバラになるのではないかというふうな気も私個人としては持ります。ですから、西の方は一日も早くそういう不安を取り除いていただきたいというような御意見が多かったと思います。また、東の方につきましては、地域によって少し温度差があるのですが、やはり今は運営につきましてもスムーズにいけるというふうな形でそんなに慌てなくてでもいいのではないかという意見と、また、学校の先生方につきましては、やるなら最初にやって、子どもたち自身が協力し合いながらその学校をよくしていくというふうな気持ちを育て、それを先生方が協力して実践に移していく、よりよい学校にしていくというようなことが出たように思います。

まとめにはならないのですが、もう少し雑談的に、こんなこともあるのではないかというような意見がございましたら、どなたからでも結構ですので、頂戴したいと思います。

(委員)

5年もあってできないソフト面はないと思っているので、ソフト面について全然言及しませんでした。5年もかけて、もし間に合わないのだったら、本当にやらないほうがいいと思います。

逆に、視察に行っても思いましたが、小中一貫教育で大事なことはやはりハード面だと思いますね。教育環境というのは、教育に最もつながっているということを視察して痛感しています。そういうことで質問ですが、いただいている行程表では、カリキュラムの策定に5年かかっています。これは完成の目標をいつ、実際、開校のどれぐらい前に目指しておるのかということを。

(委員長)

カリキュラムですか。

(委員)

はい。気になります。というのは、教育の大きな仕組みが変わるわけですので、非常に子どもへ影響が大きい。子どもにとってもですし、保護者にもですね。そこに対して十分に理解をして、あらゆる準備をしてその上で移行しないと。移行期間が十分必要ではないかなと思っています。それで、開校の4月にカリキュラムが完成ということになると、到底、変化に子どもはついていけないと思うので、このカリキュラムの完成、開校にまでこの矢印が引っ張られるというのは非常にまずいのではないかと思うのですが、どのように考えておられるのでしょうか。

(事務局)

先般、委員の皆様方には行程表ということで案をお示ししております。ここでカ

リキュラムと教育計画の整理をしておきたいと思います。東条東小学校の教育や西小学校の教育というのは、平成27年度の教育計画というものがあります。東小学校、西小学校、東条中学校で今年度、このような教科を中心にこういう方法でこのような力をつけていこうというのが教育計画になります。ただ、単年で変わるものかといえば、何年間かかけてやるようなものです。これが教育計画というものです。この教育計画のもとになるのが、カリキュラムになります。これは、加東市がこういった子どもをつくりたいということで、教育委員会が策定をして各学校へ示す、言うなれば教育方針です。それに基づいて、各学校が教育計画を立てるということです。このカリキュラムというのは、御存じのように、文部科学省が示しています学習指導要領やその他の法令に則っているもので、主には学習指導要領になります。

今、そのカリキュラムと教育計画が一緒になっているかなと思うのですが、先般、他の地域でちょっと説明させていただいた例え話になりますが、カリキュラムというのは料理で言えば、私どもが教育行政として示すレシピです。だから、全く違うものをつくってもらったら困りますが、味つけであったり、盛りつけであったり、つくり方は各学校の子どもたちの実態であったり地域の実態を踏まえて、各校長先生方が責任を持って決められます。それが教育計画になります。加東市教育委員会の中に教育研究所員会という組織がございまして、各学校の教科の代表の先生方に集まっていたら毎年研究をします。何を研究しているかといえば、新たなカリキュラムの研究をしています。喫緊の課題、例えばキャリア教育等、お聞きになったことがあると思いますが、そういうことについてどういったカリキュラムをつくるべきかというようなことを市全体で考えていきます。それを各学校にお示しをしたり、逆に各学校で研究をいただいて、学校現場に実際に合ったものかどうかというのをもう一度市の教育委員会のほうにフィードバックして、そこでまた市の教育行政として考えていきます。これがカリキュラムというものです。具体的に言いまして、今、研究所委員会のほうでカリキュラムというのはつくりかけています。9年間かけて子どもたちにどんな力をつけていくのかを各教科ごとに今、洗い出しをしています。今からやっておりますので、当然2年、3年で完成します。ただ、それは完成しただけであって、本当に実態に合っているのかはわかりませんので、その時点で各学校におろして研究をしてもらいます。その研究をしていただいたものをまたフィードバックして、カリキュラムの新たなものに加えていくということで、5年間という形にしています。5年かけたらできるのかといえば、子どもも、喫緊の課題も変わるため、毎年、毎回考えていかなければいけません。教育計画はその中にあって各学校が考えますので、これは小中一貫校が開校したとき、それと開校する前に先生方が決まりますので、新しい学校で具体的にどんな教育活動をやるのかは、その学校の先生方に責任を持って決めていただきます。それが先生方のやる気につながると思っています。

今、申し上げましたように、カリキュラムと教育計画の違いは、こういった内容です。この話は、実はカリキュラムづくりでお世話になっていますが、兵教大の准教授の安藤先生が、県の小中一貫説明会の際、文部科学省の説明の後に、全市町に對して同じような説明をされていました。以上です。

(委員)

もう一点、お聞きしたいのですが、小中一貫教育になるということで、差し当たつて実際にその学校で学ぶ科目についての教育内容はもう国で決まっていることですね。これが影響を受けることはないと思っているのですが、それが小中一貫校を開校するに当たって変化するということは起こり得ることですか。

(事務局)

最初に説明を差し上げた新しい教科については、例えば市民科等、先行校で教育特区の制度を持って新しい教科をつくっているところがあります。例えば品川であれば品川市民科というようなことは全て特例でやっていることであって、教育課程上は基本的には認められていないことで、研究ということです。ただ、私どもが目指しています義務教育学校ではなくて併設型学校も小中一貫校です。法律上、法令上認められる学校では、例えば「かとう学」を教科にすることは可能です。だから、それは私どもが教育課程としてカリキュラムとしてつくるときに、これが有効だというようなことを判断できればやりますが、最初に申し上げましたように、そのために例えば年間の授業時間数が大幅に増えるという子どもへの負担等は配慮しなさいという制限はかかっていますので、今後協議はしていくと思いますが、「かとう学」をやるということはもう間違いない決定をしたということになります。

(委員長)

何でも結構ですので、他に何か御質問等ござりますか。

(委員)

カリキュラムが住民に示されるのは何年後ですか。たたき台だろうと思いますが。

(事務局)

行程表の中で、2つ、説明会というのがあると思います。先般、皆さん方にはA3の1枚物でお配りした分と文書表記した中間報告を含めました加東市が今後指していくという小中一貫教育についての説明を差し上げています。明日以降に、小中一貫教育の研究会がもう残り2回ございまして、ここで詳しいところをもう少し提言をいただいた後、これがカリキュラムをつくるためのバイブルになります。バイブルが決まれば、基本方針が決まりますので、それに基づいてカリキュラムをつくるていくということです。今、下地でカリキュラムづくりの研究をしてございますが、来年、再来年にはある程度形をつくって、各学校で研究なり、検討してやってみてくださいという時点では示せると思います。教員には示すわけですから。だから、必要があれば示しますが、詳しい計画についてどこまで示すかというのではありますので、いずれにしましてもこういったことで教員と協力してやっていきます。試行期間が要るため、当然、学校でやっていただかないといけませんので、具体的なものは2、3年後には出せるかなと思います。

(委員長)

ほか、何かございませんかね。

それでは、意見が出終わったようですので、今、皆さん方に御審議また御意見を頂戴しましたことをもう一度まとめますと、まず1番目に、一貫校の形態というのを一体型を願う。よろしいですね。

それから、2番目ですが、整備場所ですね。場所につきましては、いろいろな意見が出ております。先ほども言いましたように、まず第一には、とにかく子どもの安全を考慮していただきたい。それから、教育環境ですね。子どもたちが楽しく和気あいあいとやる気を起こさせるような環境づくりと、そういう場所にしていただきたいということですね。

それから、整備時期につきましては、ある地域の1人の方は少し時期尚早ではないか、もう少し見てからでよいのではないかということでしたが、全体的な意見としては、東条は早期にしてほしい、ある程度早い時期にやってもいいのではないかという意見が多く出たように私は感じました。

2番目の場所ですが、とにかく子どもたちの安全を考えて、教育委員会のほうでまた考えていただきたいということで、意見交換を終わらせていただきたいと思いますが、いかがですか。よろしいですか。

〔異議なし〕

(委員長)

それでは、今後の予定につきまして、事務局の説明をお願いいたします。

(2) 今後の予定について

〔事務局説明〕

(委員長)

いかがでしょうか。社、滝野、東条の委員長、副委員長に寄っていただきまして説明して、説明したこと、また納得したこと、了解を得たことを皆様方に文書で通知するのも一つの方法ですが、こういう場を開いてするのも一つの方法です。どちらがよろしいでしょうか。皆様方の御意見を聞かせてください。

(委員)

やるとすれば、東条地域だけでやるのですか。

(事務局)

同じ報告のほうが良いので、3地域のほうが良いと思います。ただ、日程調整がありますので、大変かなという気はします。

(委員)

決定事項というのは私たちだけで、一般の住民の方には全然発信しないのですか。

(事務局)

当然発信はします。まず、皆さん方にお話しするのが筋だろうということだけです。

(委員)

それなら、文書でよいのではないですか。

(委員長)

それでは、文書で通知していただくということで、よろしいでしょうか。

〔異議なし〕

(委員長)

それでは、事務局、それでお願いしたいと思います。

3 教育長挨拶

4 閉会

【資料名】

資料① 小中一貫教育推進協議会での主な意見（東条地域）

平成28年3月16日